NEW STYLE ONE MAKE RALLY

Racing Development TRD Vitz challenge

2009/6/28　Round 3 in 蓼科

2009シリーズ中間点!

初夏の蓼科ラウンド、49台の精鋭が集結!

2009年6月28日(日)、『TRDヴィッツチャレンジ Round 3 in 蓼科』が長野県立科町周辺で開催された。 今回のエントリーも49台とエントリー台数を伸ばした。

スタートは女神湖畔にある観光協会の駐車場で、観光シーズンには大変混み合うエリア。今回のラリーはスタート・サービス・ゴールともこの会場となった。

早朝のレキを48台(不出走1台)の参加車両が済ませ、1号車のスタートは午前10時となった。今までのラリーより1時間ほど遅いスタートとなった今回のスタートに、偶然居合わせた観光客も興味津々でスタートを見送る。

クラス5には、明治大学　加藤／中島組がレンタルヴィッツラリーカーで初エントリー。(左) 参戦3度目となる早稲田大学 吉久／関根組を追う。(右)

今回はトヨタ自動車C&Aチームの村田氏が参戦。コ・ドライバーはヴィッツRSで全日本ラリー選手権に出場中の井上裕紀子選手が務めた。

RALLY DATA

Round.3 in 蓼科

■ 主催	コンペラリーチーム(C.R.T.)
■ 開催日	2009年6月28日(日)
■ 開催エリア	長野県内
■ スタート会場	女神湖駐車場
■ セレモニアルスタート	女神湖駐車場
■ サービスパーク	女神湖駐車場
■ ゴール会場	蓼科ふれあいセンター
■ セクション数	2
■ SS本数	7本
■ SSトータル距離	8.88km
■ 総走行距離	約120km
■ 参加台数	49台 Class 1　11台 Class 2　7台 Class 3　11台 Class 4　18台 Class 5　2台
■ 完走台数	45台 (不出走1台)
■ 取材媒体	長野日報社 長野日報 市民新聞グループ 諏訪市民新聞 株式会社 三栄書房 WRCプラス (プロクルーズ写真・レポート)

毎年『ダートメイン』と名高い蓼科ラウンドだが、今シーズンはさらに未舗装林道SSが1本増え、全体の70%がダートコースというヴィッツチャレンジの中でもハードかつ、ファンにはたまらないラリーとなった。

SS1・4は、スキー場の駐車場を利用したSS。ここはコースから道路を隔てた反対側に見学スペースがあり、多くの一般のギャラリーが熱心に見学しているのが見られた。土を巻き上げながら豪快に走る姿に魅了されたギャラリーたちは、SSを終えてリエゾンへと向かう選手達へ声援や手を振り、健闘を称えていた。　SS2・5は、国道をやや立科町側に降りたところにあるN林道。数日前の豪雨による路面の荒れでコースの使用が危ぶまれていたが、オフィシャルの補修により使用可能となり、全長約4kmのうち1.7kmを使用して行なわれた。

SS3・6は、今回のラリー唯一のターマック（舗装路）SS。約1.4kmの比較的ハイスピードのSSコース。　SS7は、一昨年使用したNM林道。一昨年は天候の影響もあり道が荒れたため、今回は1本のみの使用とした。

この様に、3本の林道と1箇所のダートコースを使用するレイアウトとなっていた今回のラリーであるが、これにはオーガナイザーの自治体・観光協会などへの地道な折衝があって実現していることも忘れてはいけないことである。

サービスパークでは、障害者団体の見学会が催され、選手や色とりどりのヴィッツを興味深く眺めていた。

天候不順が懸念されていたが、奇跡的にも競技が終了するまで降雨も無く、信州の高原ならではの湿度のない気候の中で進行することが出来た。 リタイヤはミッショントラブルとドライブシャフト破損による3台のみで、コースアウト車両はなく、参加者のスキルの高さを伺えるものとなった。

表彰式は女神湖畔の『蓼科ふれあいセンター』にて催され、主催者より本日の総評、初参加者の紹介、各関係者からのコメントをいただいた後、今回の表彰が行われた。

無事にラリーを終えた初参加の選手たちも、おのおのにラリーやヴィッツチャレンジに対する想いをコメントした。

Class 1
1500cc(NCP91)オープンクラス

Class 3
1000cc(SCP10)オープンクラス

Class 2
1500cc(NCP91)チャレンジクラス

Class 5
1000cc(SCP10)学生対抗クラス

Class 4
1000cc(SCP10)チャレンジクラス

主　幹：TRDヴィッツチャレンジ事務局（株式会社プロクルーズ内）

次戦「Round 4 in 群馬」は、9月20日(日) 群馬県・北軽井沢周辺で開催いたします。